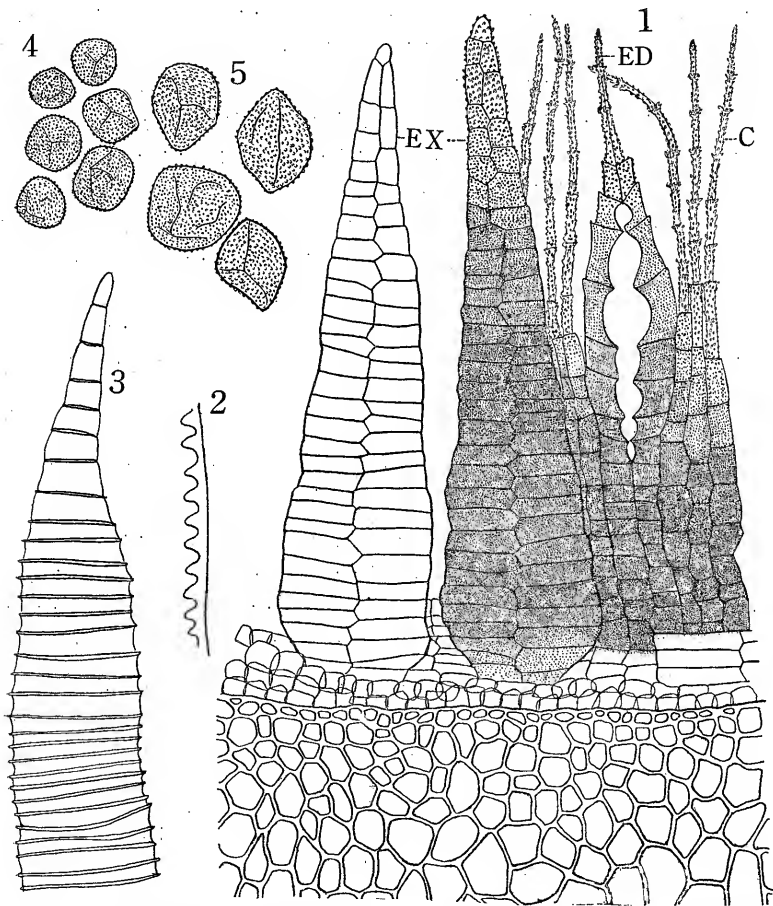


○ナミガタチョウチンゴケの子実体 (水島うらら) Urara MIZUSHIMA: On the sporogon of *Mnium undulatum* Hedw. found in Japan.

邦産の *Mnium undulatum* に子実体が出来にくい事は永野巖氏が秩父自然科学博物館研究報告第 6 号 (1955) 中で秩父地方のチョウチンゴケ属を扱われた際に既に述べておられる。氏は秩父地方で 11 月に未熟な子囊柄と枯死した子囊柄の両者を着けた植物を採集され、秩父山地におけるこの種の子囊成熟期は 2~3 月と思われると推論しておら



ナミガタチョウチンゴケ *Mnium undulatum* 1. 藓齒 (外側より見る), EX. 外藓齒, ED. 内藓齒 C. 纖糸; 2. 外藓齒 (外側より見る); 3. 内藓齒 (内面より見る); 4. 孢子 (普通のもの); 5. 孢子 (大型のもの). 1~3: $\times 115$; 4~5: $\times 375$.

れる。筆者も先年 9 月末に信州、南安曇郡、上高地 (標高 1550 m) で未熟な子実体を着けた植物を採集し、その孢子成熟の時期は冬～早春であろうと思っていた。ところが昨夏、8 月上旬に信州、上伊那郡、美和村、赤河原～北沢峠の八丁坂 (1650 m) で蒴胞を持つた同種を得た。この蒴胞は既に蒴蓋、口輪と大部分の孢子を失つてはいたが完全な蒴齒を有し、完熟後半年も経たものとは思われない。矢張り歐洲産のものと同様、5 月頃に成熟したと見るのが妥当であろう。

歐洲産について子実体の記載を見ると、一花葉から出る蒴柄の数は 2～10 本、多くは 5～6 本で、その長さは 2～3 cm 或は 2～3.5 cm と成っている。又 Kabiersch が東亜のチョウチンゴケ属を扱った中 (Hedwigia 76: 61 (1936)) にはその長さは 3 cm と成っている。実際に歐洲産標本に当たてみると蒴柄の数は 5～7 本あり、長さは 1.5～3.0 (～3.5) cm 位である。一方邦産のものは蒴柄の数は 4～5 本迄で、それより多いものはまだ見ていない。八丁坂産のものではその長さは 3.5～4 cm あつて壮大である。飯柴榮吉氏は日本産蘚類総説 111 頁 (1929) で矢張り 4 cm と云う数値を示しておられる。資料が少ないので確言は出来ないが、邦産のものは歐洲産よりやや蒴柄が長くなる傾向があるかも知れない。蒴胞の形、頸部の氣孔や蒴齒の構造については歐洲産と大差はないようだ。外蒴齒は緑色を帯びた黄褐色で外面は薄膜質で全面に細かいパピラを密生した横長の細胞が縦 2 列に並び、左右細胞の接線は雁木状の中央線を成している。内面は 30 個内外の細胞が縦 1 列に連り、下部では横長、上部では縦長であつて、各細胞の接線は余り高くないラメラに成っている。内蒴齒は全面をパピラで被われ、下部は黄褐色、上部は透明で 2 本の齒突起の孔は相接してほぼ円形をなし、齒長の中央 $\frac{1}{3}$ を占め、それより下部には無い。間毛は邦産品では 3 本のものばかりであつた。孢子は 18～25 μ で形や表面のパピラに歐洲産と区別はない。Warnstorf が Kryptogamenflora der Mark Brandenburg, 2: 555 (1905) に孢子の中には大形のものが混つているように書いているが、これは邦産品にも見出され、その最大直径は 36 μ に達するものがあつた。

チョウチンゴケ属では葉の構造がよく分化し、種としての特徴をよく現わしているにもかかわらず蒴齒の構造は変化が乏しいのでこれについては余り注意が払われていないようだ。しかしこの種については今まで詳しい図がないのでこの機会に図示しておくのも無駄ではないと思う。

最後に貴重な標本、文献を御貸し下さつた共立薬科大学、桜井久一先生、国立科学博物館、小林義雄先生に御礼を申し上げます。

The sporogon of *Mnium undulatum* Hedw. is very rare in Japan as like as in Europe. It was collected at Miwa-mura, Kami-ina-gun, Prov. Shinano, in August, 1958 at about 1650 m.s.l., by the author. This appears to be the first record of its particulars from Japan. Comparing it with European specimens and their descriptions, there are no differences in the structure of peristome, stomata and spore, excepting the length of seta. In my specimen, it reaches 4 cm. Perhaps the fruit matures in May. (東京都府中市 [redacted])